

2 アンケート調査結果の集計・分析の概要

(1) 調査の概要

調査分類	調査対象	調査期間	調査方法	調査件数	回収数	回収率 (前回)
① 介護サービス利用アンケート	介護サービス未利用者とその家族	R4. 12	郵送	600	253	42.2% (47.2%)
	居宅で介護サービスを利用している方とその家族		郵送	800	381	47.6% (50.0%)
	施設で介護サービスを利用している方		郵送	300	121	40.3% (59.7%)
② 在宅介護実態調査	在宅で生活している要支援・要介護認定者	R4. 12 ～ R5. 2	聴取等	656	656	100.0% (100.0%)
③ 日常生活圏域ニーズ調査	在宅で生活している要支援認定者、一般高齢者	R4. 12	郵送	9,890	5,977	60.4% (63.3%)
④ 介護人材実態調査	市内の介護保険サービス事業所	R4. 12	郵送	239	160	66.9% (66.9%)
⑤ 介護サービス意向調査				113	81	71.7% (63.7%)

なお、各グラフの数値は、小数点2位で四捨五入しているため、合計が「100.0」にならないことがあります。また、複数回答の設問は合計が「100.0」を超えることがあります。

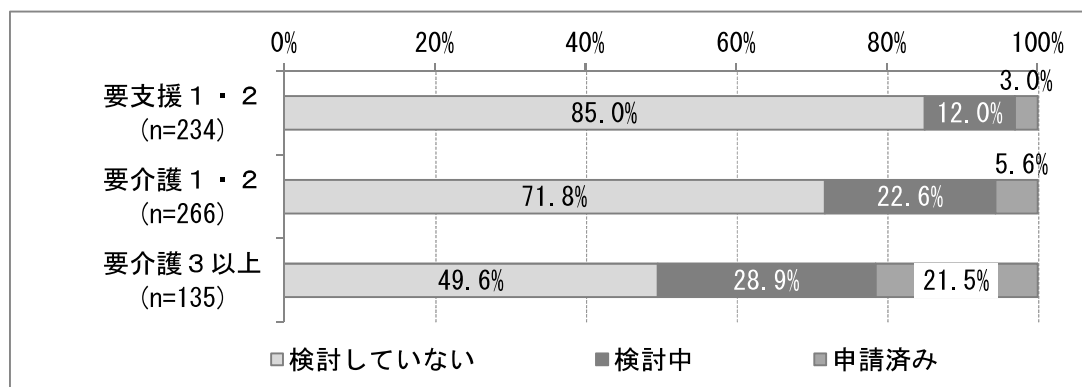
(2) アンケート調査結果の傾向分析について

次期計画策定に向けて実施した5種類のアンケート調査結果を基に、以下の特徴を抽出しました。なお、分類・整理に当たっては、調査対象により「要介護認定者・家族介護者の視点からの傾向」「介護保険サービス事業者の視点からの傾向」「元気な高齢者の視点からの傾向」、「要介護リスクの傾向」の4種類に分類しています。

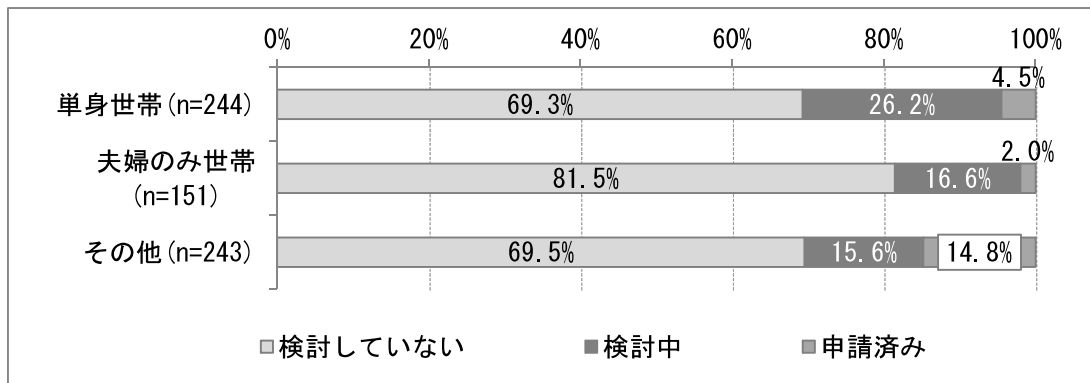
① 要介護認定者・家族介護者の視点からの傾向

● 要介護3以上の5割近くが施設等への入所を検討していない。

- 施設等への入所の検討状況を要介護度別でみると、各区分において「検討していない」が最も高い割合となっており、「要介護3以上」では49.6%と5割近くが回答しています。
- なお、「申請済み」は「要介護3以上」で21.5%みられるほか、「検討中」は「要介護1・2」、「要介護3以上」とともに20%以上となっています。(在宅介護実態調査)

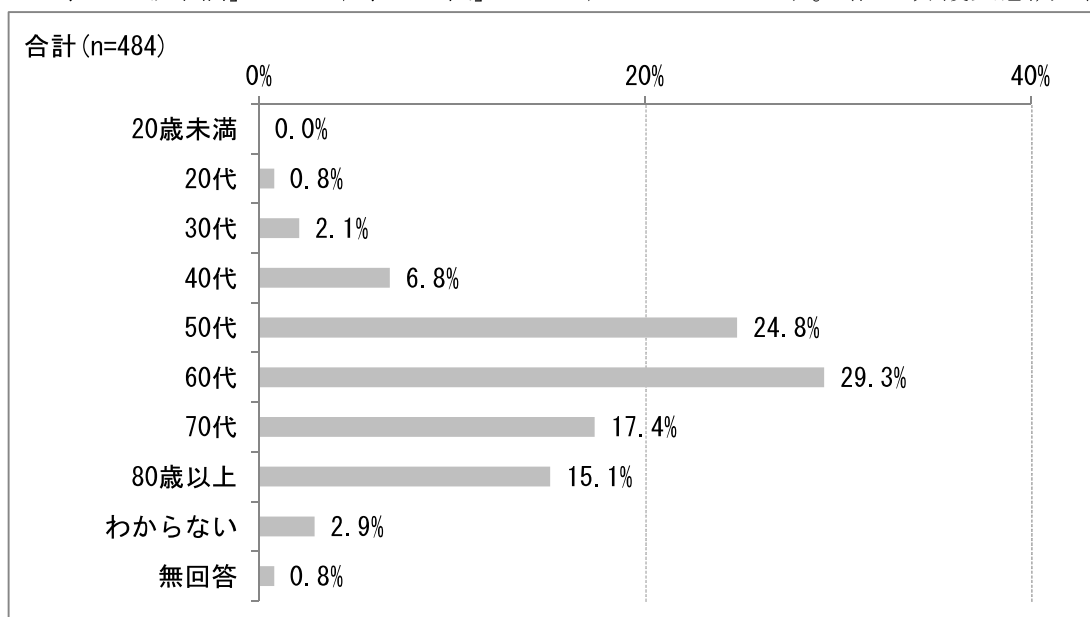


- また、これを世帯類型別にみると、各分類とも「検討していない」が最も高い割合となっています。なお、「申請済み」は「その他」世帯で14.8%、「検討中」は「単身世帯」で26.2%と比較的高い割合となっています。(在宅介護実態調査)

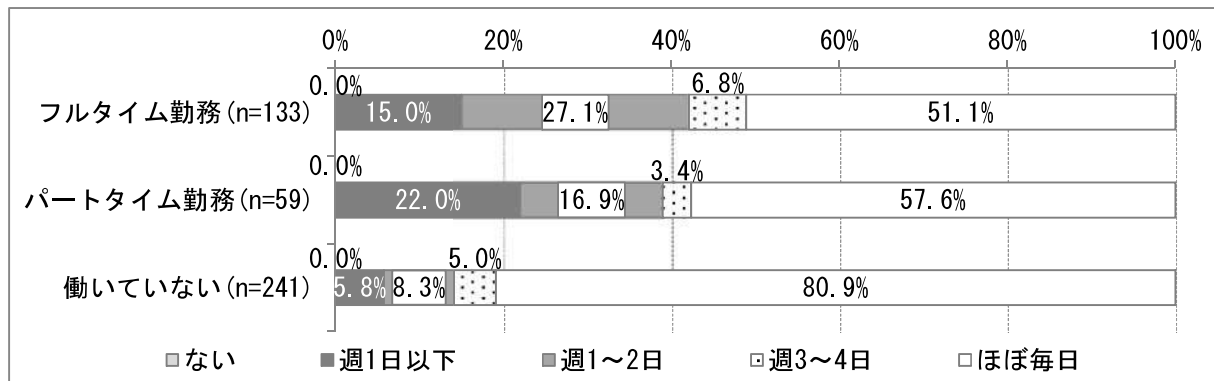


● 介護と仕事を両立している介護者が多くみられる。

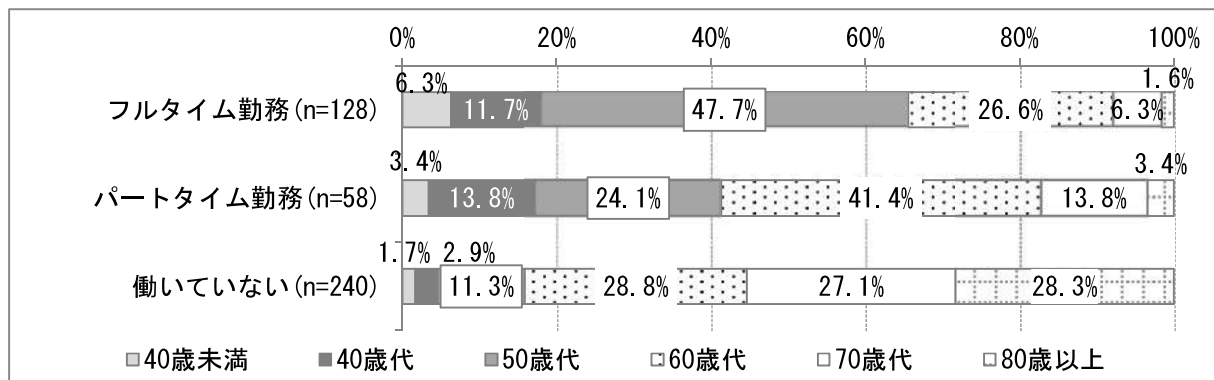
- 認定者のうち、自宅で家族等から介護を受けている人は74.7% (648人中484人) となっています。
- 認定者を介護している家族介護者の年齢は、「60代」が29.3%、「50代」が24.8%となっており、この2つの年齢層で54.1%となっています。
- また、「60代以上」が61.8%と6割以上となっています。
- なお、「20歳未満」は0.0%、「20代」は0.8%となっています。(在宅介護実態調査)



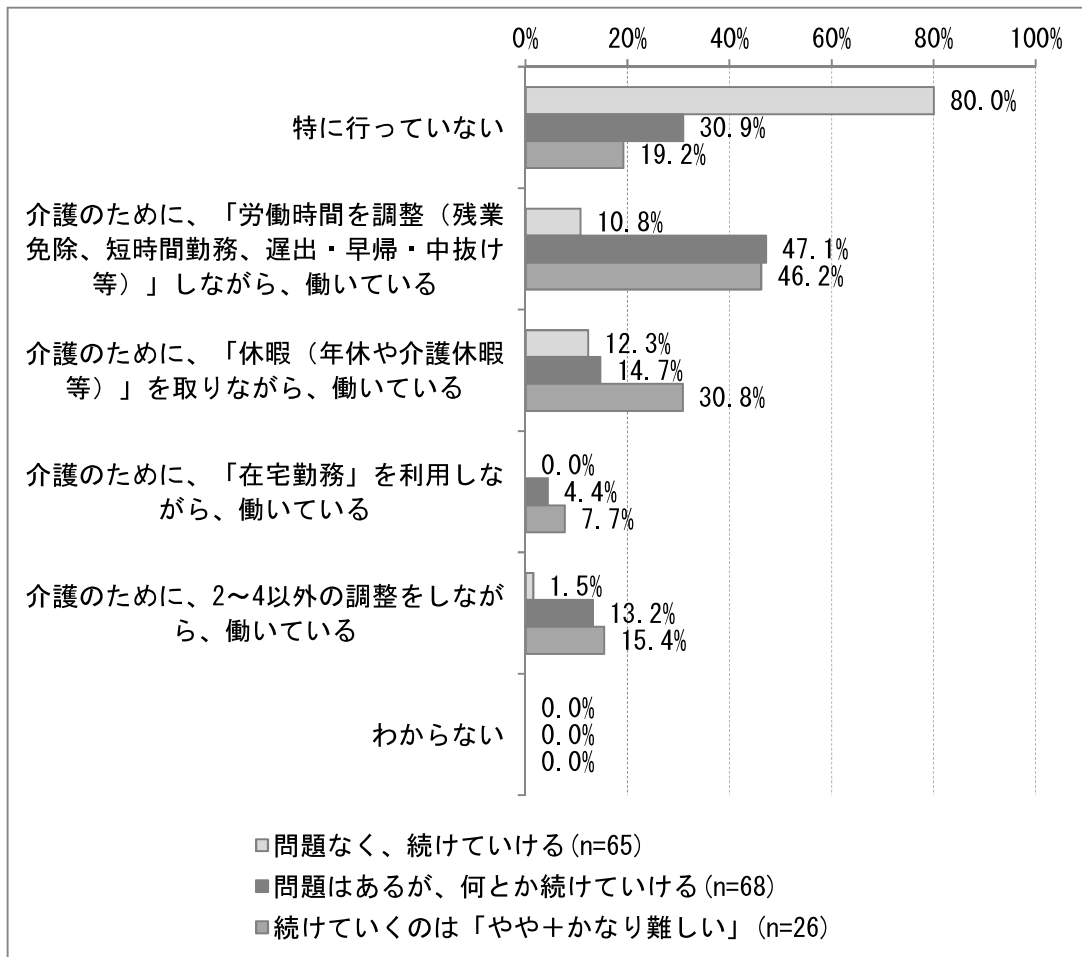
- 家族等による介護の頻度を介護者の勤務形態別にみると、「ほぼ毎日」が「フルタイム勤務」で51.1%、「パートタイム勤務」で57.6%と半数以上となっています。(在宅介護実態調査)



- また、主な介護者の年齢を勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「50歳代」が47.7%、「パートタイム勤務」では「60歳代」が41.4%と最も割合が高くなっています。(在宅介護実態調査)

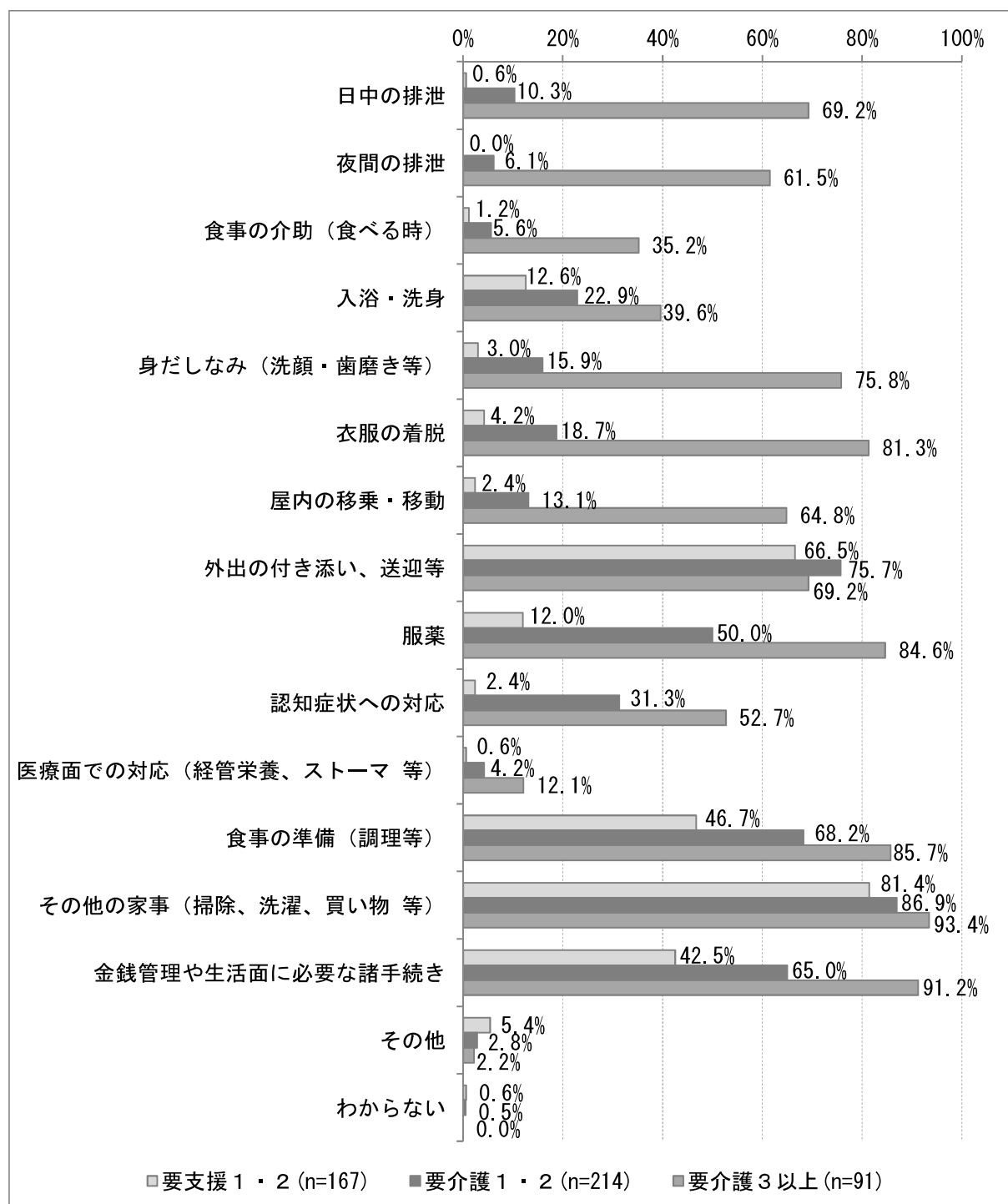


- 主な介護者の働き方の調整について、「続けていくのは『やや+かなり難しい』」の回答の割合は、「介護のために、『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）』しながら、働いている」では46.2%、「介護のために、『休暇（年休や介護休暇等）』を取りながら、働いている」で30.8%となっています。（在宅介護実態調査）

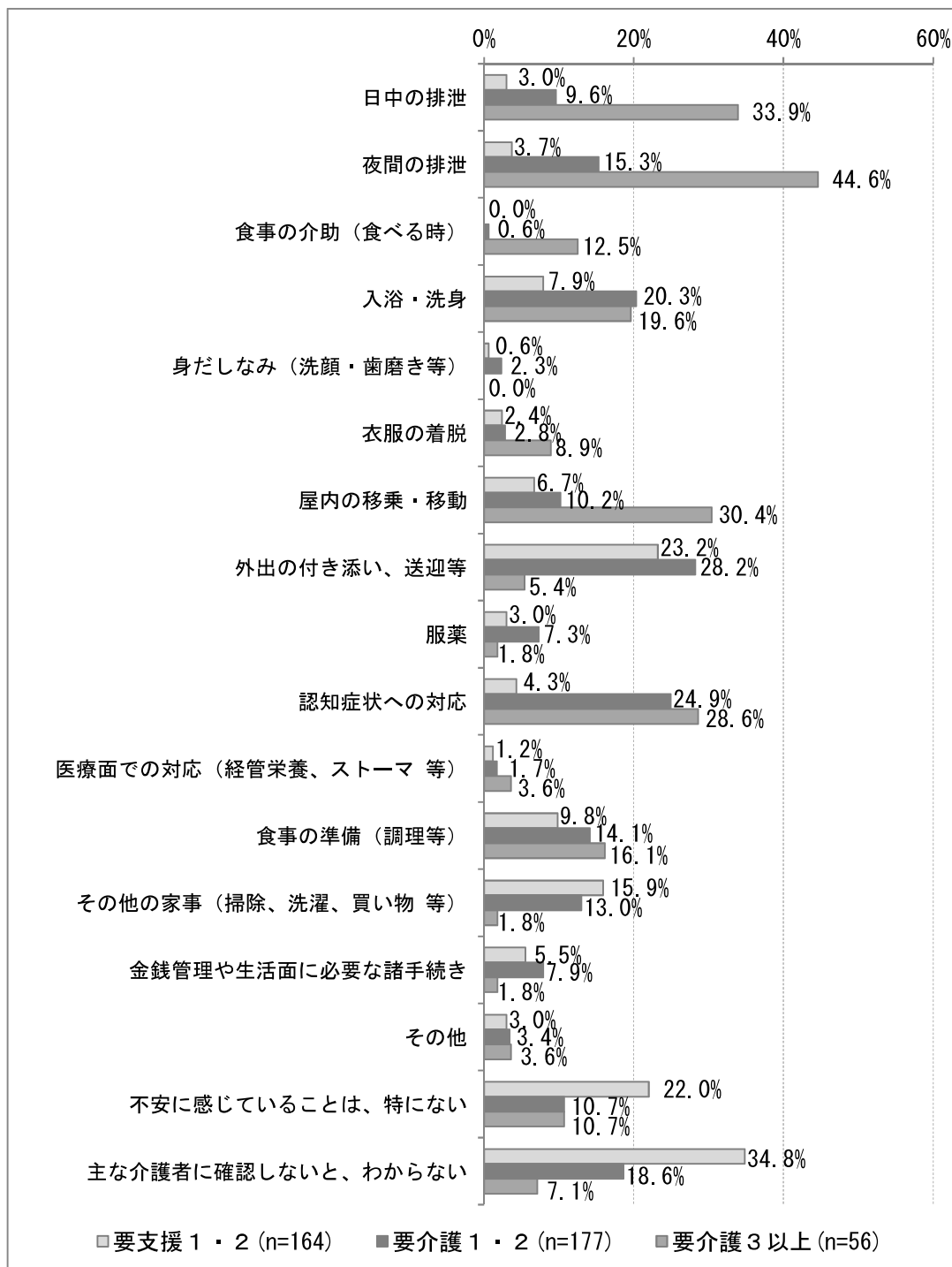


● 介護者が行っている介護は、「その他の家事（掃除・洗濯・買い物等）」と「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が90%を超える。

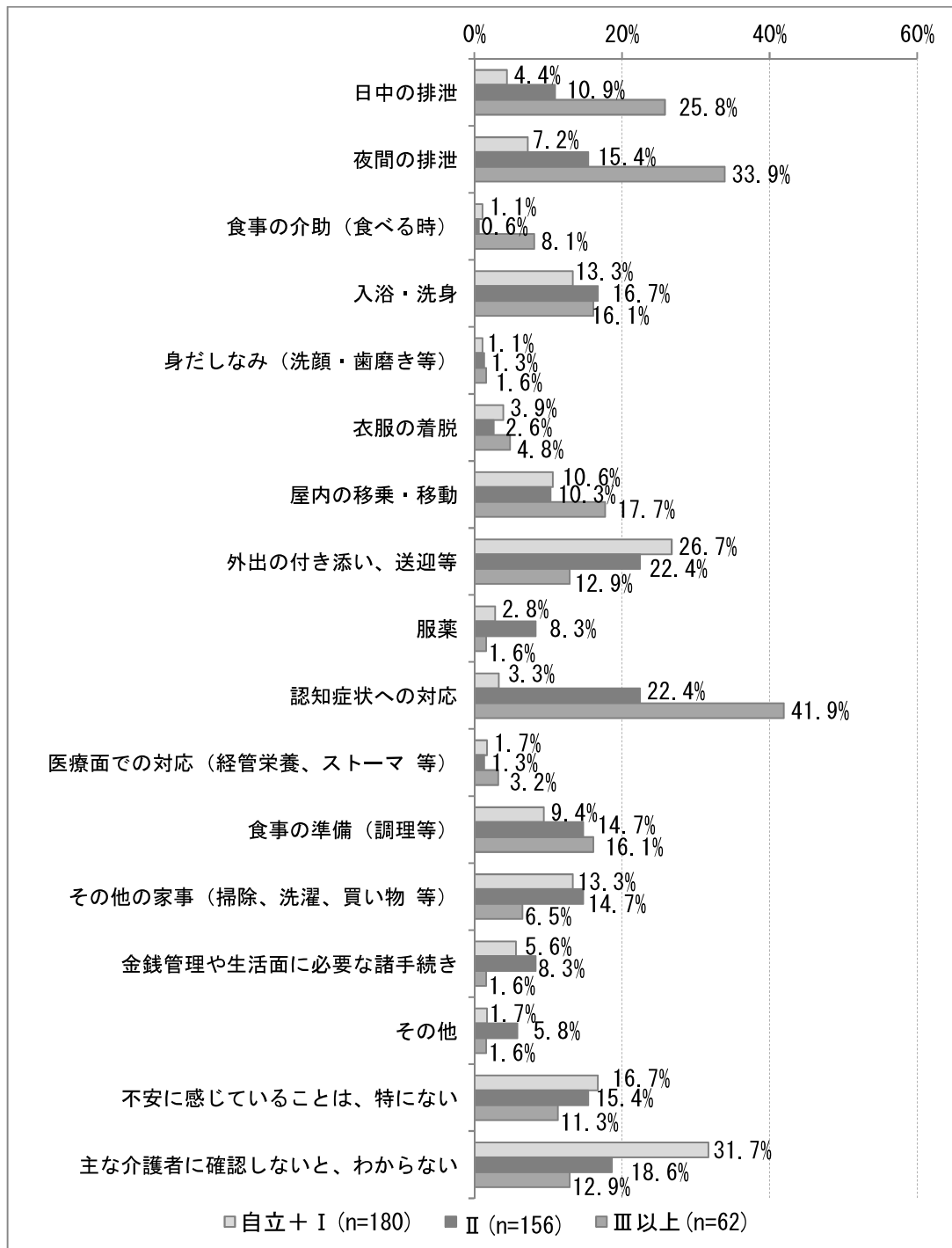
- 主な介護者が行っている介護について、「要介護3以上」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」では93.4%と最も割合が高く、次いで「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が91.2%となっています。
- なお、「外出の付き添い、送迎等」と「その他」を除くすべての介護で、要介護度が重度になるにつれて介護の範囲が大幅に拡大していくとみられます。（在宅介護実態調査）



- 主な介護者が不安を感じる介護について、「要介護3以上」では「夜間の排泄」が44.6%と最も割合が高くなっています。
- なお、要介護度が重度になるにつれて「日中の排泄」と「夜間の排泄」、「屋内の移乗・移動」、「認知症状への対応」、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」、「食事の準備（調理等）」が高い割合となっています。（在宅介護実態調査）

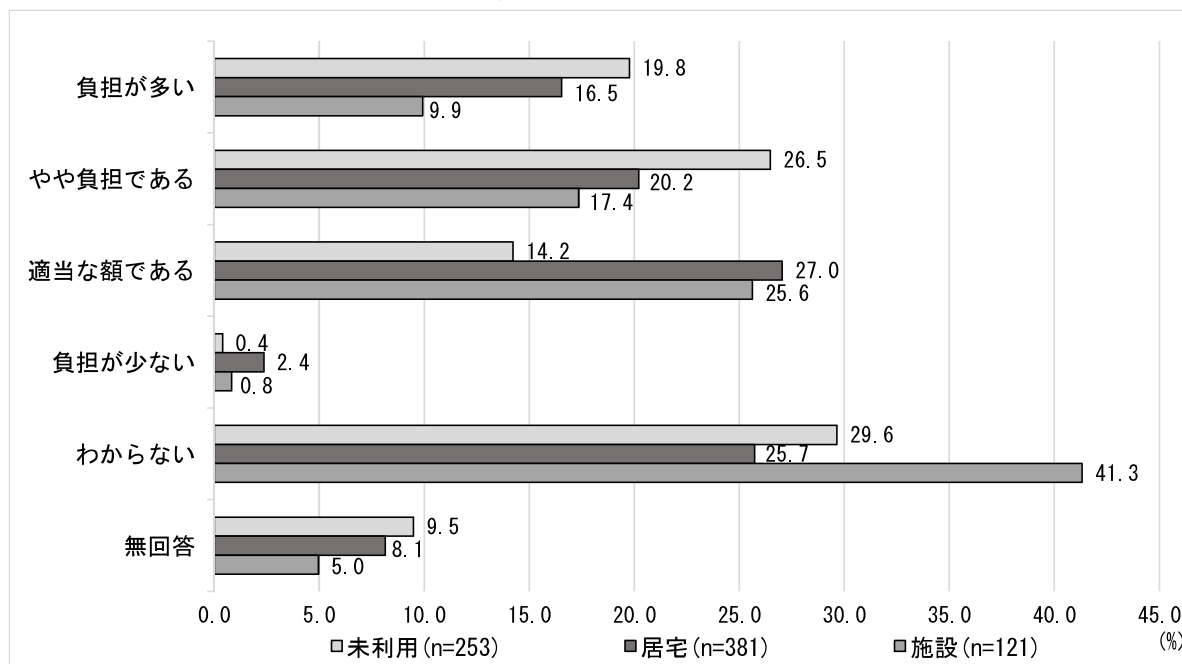


- また、認知症高齢者自立度別にみると、「Ⅲ以上」では「認知症状への対応」が41.9%と最も割合が高く、「日中の排泄」と「夜間の排泄」が比較的高い割合となっています。(在宅介護実態調査)

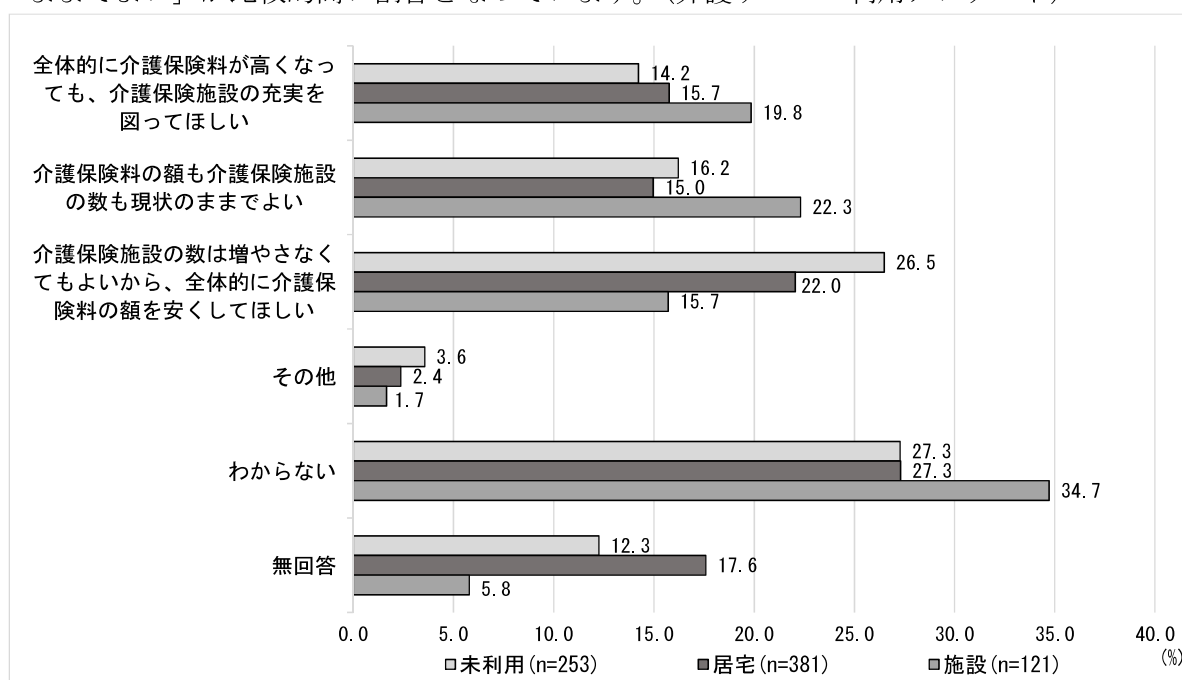


● サービス未利用者の46.3%が介護保険料を負担と回答している。

- 介護保険料について、「未利用者」では「負担が多い」が19.8%、「やや負担である」が26.5%、合計46.3%となっており、居宅サービス・施設サービスの利用者と比較して高い割合となっています。
- なお、「居宅サービス利用者」と「施設サービス利用者」では「適当な額である」がそれぞれ27.0%、25.6%となっています。(介護サービス利用アンケート)

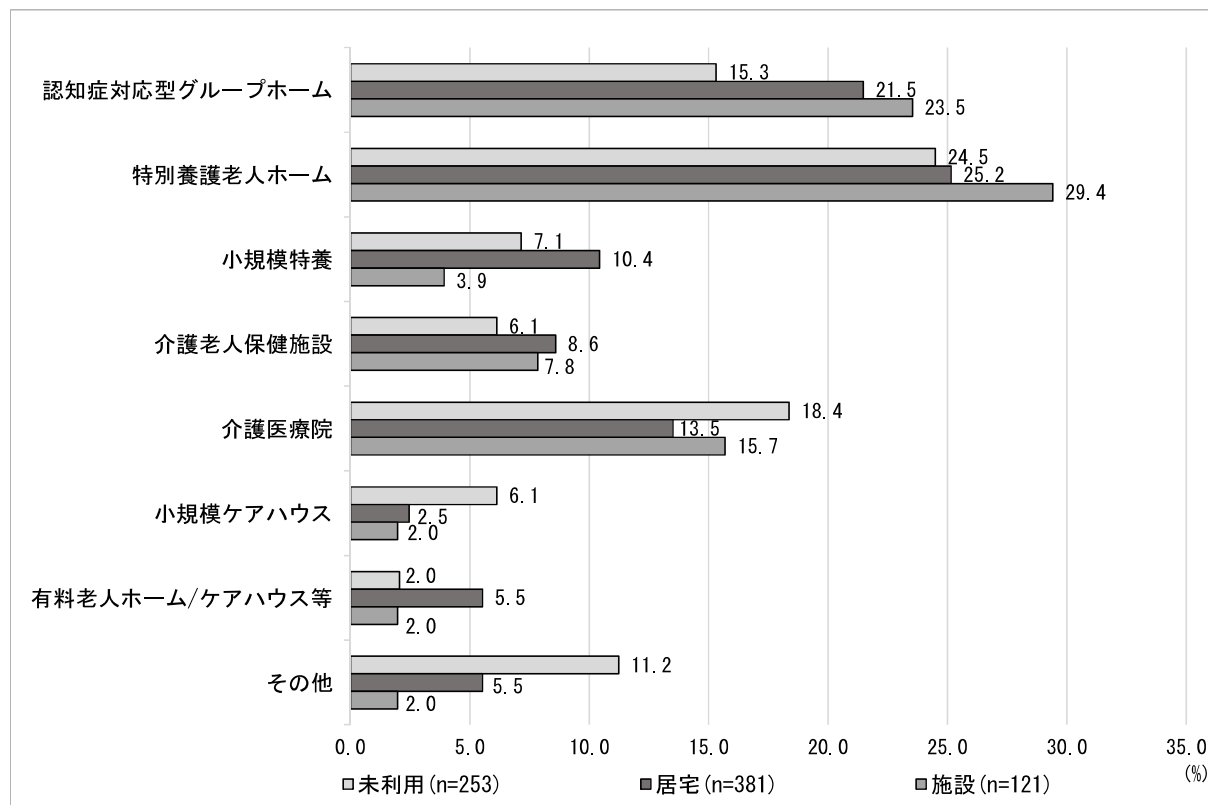


- 介護保険料と施設の整備に関して一番近い考えについて、「未利用者」と「居宅サービス利用者」では「介護保険料の額も介護保険施設の数を安くしてほしい」、「施設サービス利用者」では「介護保険料の額も介護保険施設の数も現状のままでもいい」が比較的高い割合となっています。(介護サービス利用アンケート)



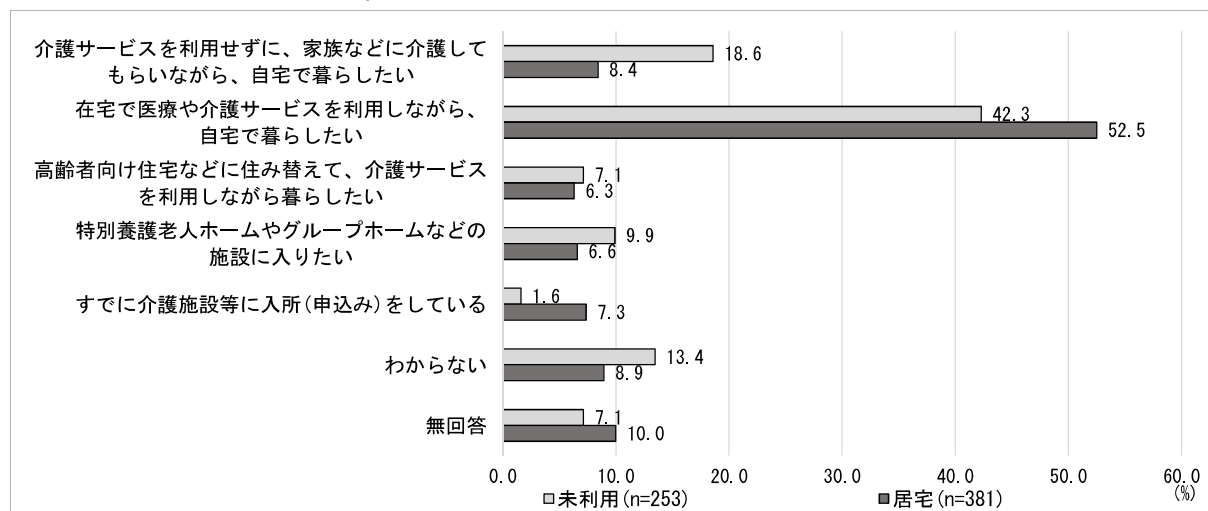
● 苫小牧市で不足している施設として「特別養護老人ホーム」の割合が最も高い。

- 苫小牧市で不足している施設について、サービス利用の有無に関わらず「特別養護老人ホーム」が最も割合が高くなっています。また、「未利用者」では「介護医療院」、「居宅サービス利用者」では「認知症対応型グループホーム」、「施設サービス利用者」では「認知症対応型グループホーム」と「特別養護老人ホーム」が比較的高い割合となっています。
(介護サービス利用アンケート)

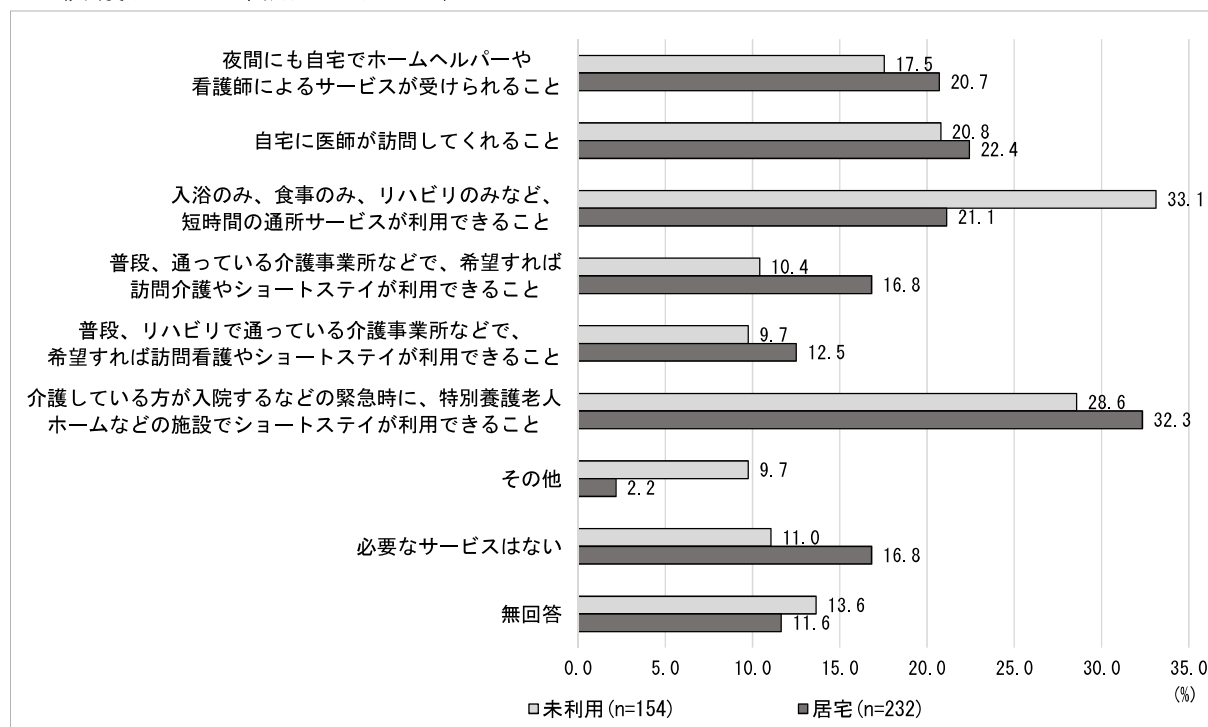


● 自宅での生活希望者が6割。

- 要介護状態に大きな変化がない場合、生活の希望について、「介護サービスを利用せずに、家族などに介護してもらいながら、自宅で暮らしたい」と「在宅で医療や介護サービスを利用しながら、自宅で暮らしたい」を合わせると、「未利用者」と「居宅サービス利用者」ともに60.9%となっています。(介護サービス利用アンケート)



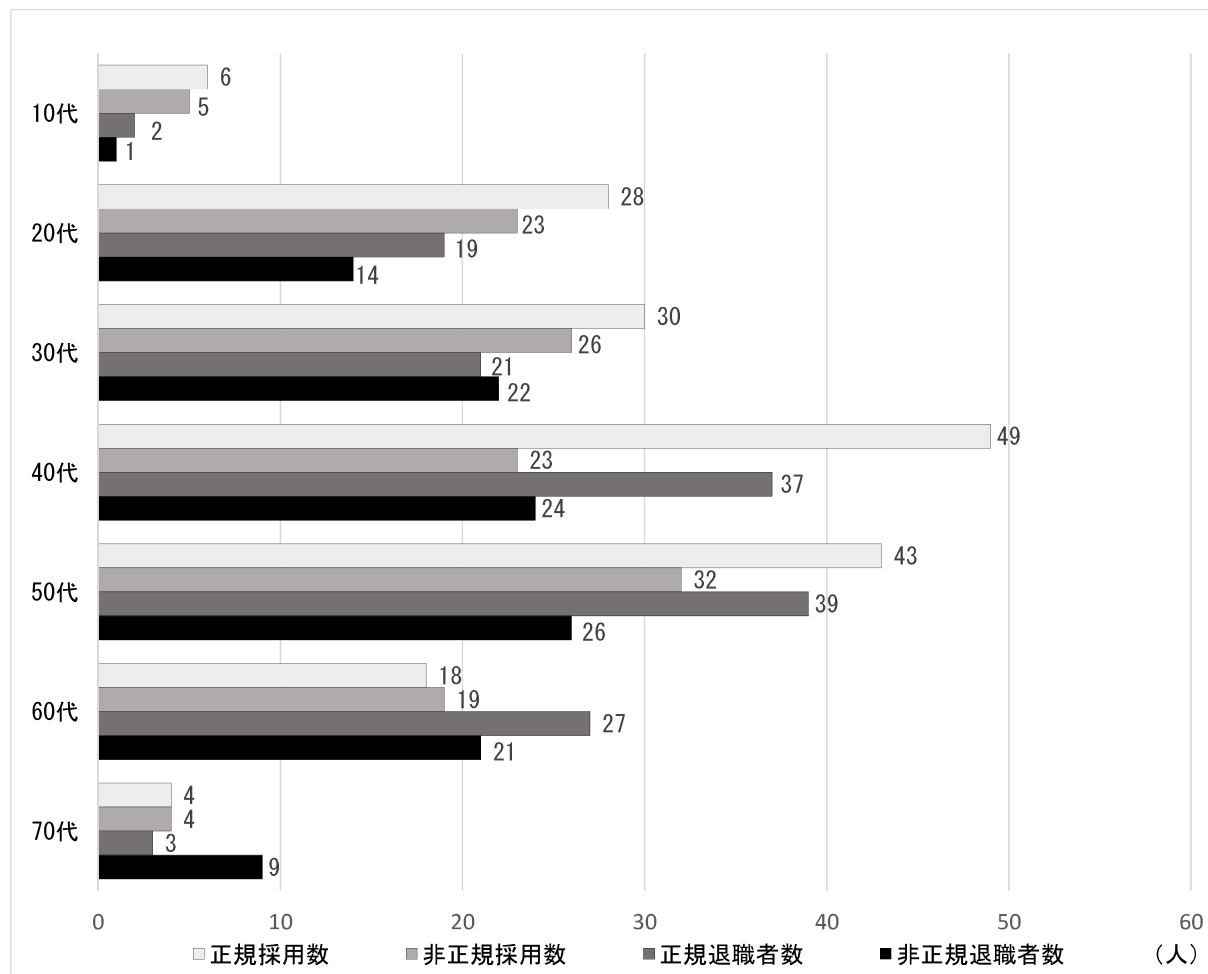
- 自宅で生活続けるために介護サービス以外に必要なサービスについて、「未利用者」では「入浴のみ、食事のみ、リハビリのみなど、短時間の通所サービスが利用できること」、「居宅サービス利用者」では「介護している方が入院するなどの緊急時に、特別養護老人ホームなどの施設でショートステイが利用できること」が最も割合が高くなっています。(介護サービス利用アンケート)



② 介護保険サービス事業者の視点からの傾向

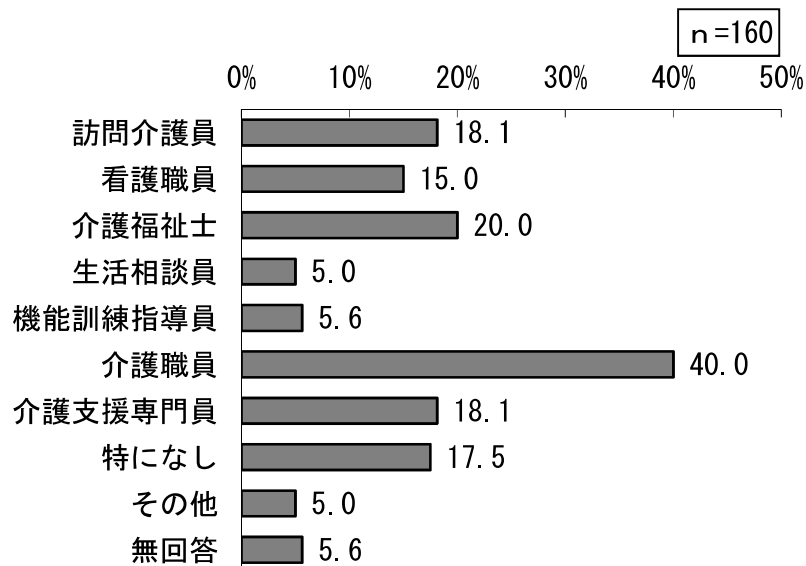
● 事業所の職員採用状況について、「40代」と「50代」で正規職員の採用数・退職数が多くみられる。また、「60代」では正規・非正規どちらも退職者数が採用数を上回っている。

- 市内の事業所において、正規職員の採用数・退職者数ともに「40代」と「50代」で人数が多くみられます。
- また、「60代」では正規職員・非正規職員ともに退職者数が採用数を上回っています。さらに、「40代」と「70代」では「非正規退職者数」が非正規採用数を上回っています。(介護人材・意向調査)



● 職員の確保に苦慮している職種について、「介護職員」の割合が高い。

- 職員の確保に苦慮している職種について、「介護職員」が40.0%（64事業所）と最も割合が高く、次いで「介護福祉士」が20.0%（32事業所）、「訪問介護員」と「介護支援専門員」とともに18.1%（29事業所）となっています。（介護人材・意向調査、複数回答）



- 欠員が出ている事業所は、160事業所中35事業所（21.9%）となっています。なお、35事業所中、内訳を記載した34事業所において、「介護職員」と「訪問介護員」の回答が多くみられます。中でも、「介護職員」に欠員を生じている事業所が24事業所76.5人となっており、欠員が比較的多くなっています。（介護人材・意向調査、複数回答）

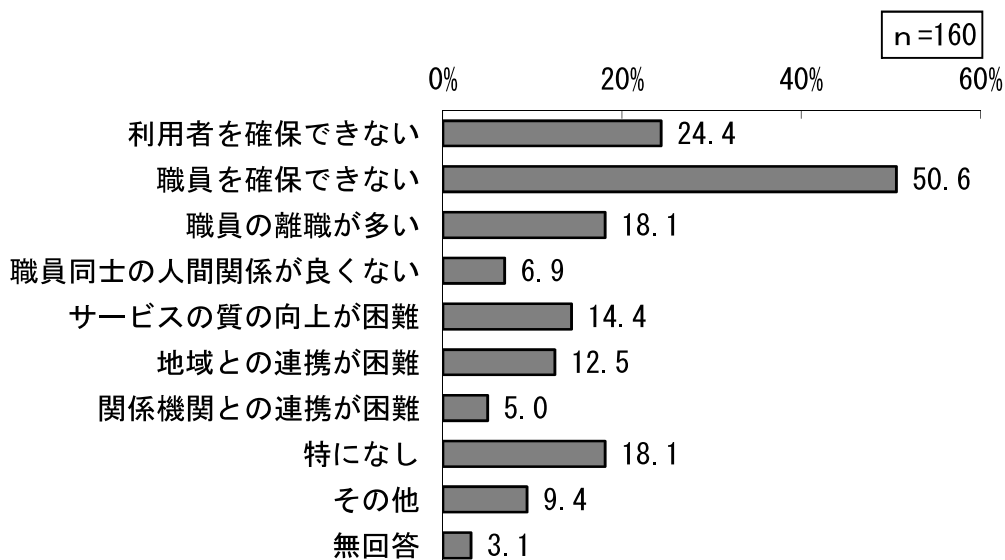
欠員が出ている職種と欠員職員数

職種	回答数	定員数		欠員数
		合計	平均	
訪問介護員	5	71	14.2	20
看護職員	5	34	6.8	6
介護福祉士	4	92	23.0	7
生活相談員	1	2	0	1
機能訓練指導員	1	4	0	1
介護職員	24	281	20.0	76.5
介護支援専門員	0	0	0	0
特になし	0	0	0	0
その他	0	0	0	0
合計	40	484	63.9	111.5

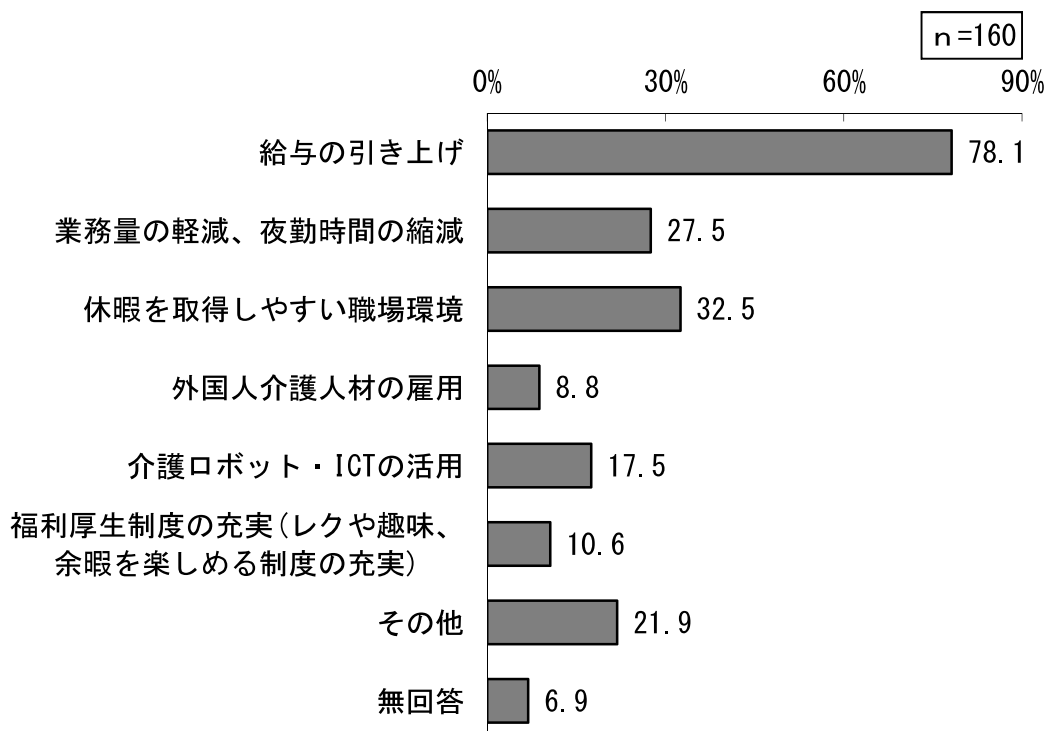
※ 内訳を記載していない1事業所は集計から除外

● 事業所の課題として「職員を確保できない」が挙げられる。

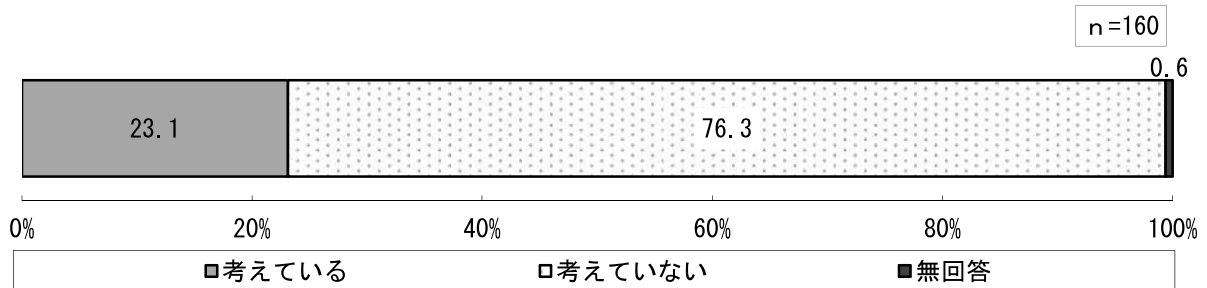
- 事業所の課題について、「職員を確保できない」が50.6%（81事業所）と最も割合が高く、次いで「利用者確保できない」が24.4%（39事業所）となっています。
- また、「職員の離職が多い」が比較的高い割合となっているほか、「特になし」と回答している事業所もみられます。（介護人材・意向調査）



- 介護人材を確保できない理由について、「夜勤がある・土日祝休みではない（希望の休みが取れない・休みが少ない）」などの自由記述がみられます。（介護人材・意向調査）
- 介護人材不足の打開に有効なことについて、「給与の引き上げ」が78.1%（125事業所）と最も割合が高く、次いで「休暇を取得しやすい職場環境」が32.5%（52事業所）、「業務量の軽減、夜勤時間の縮減」が27.5%（44事業所）となっています。（介護人材・意向調査）

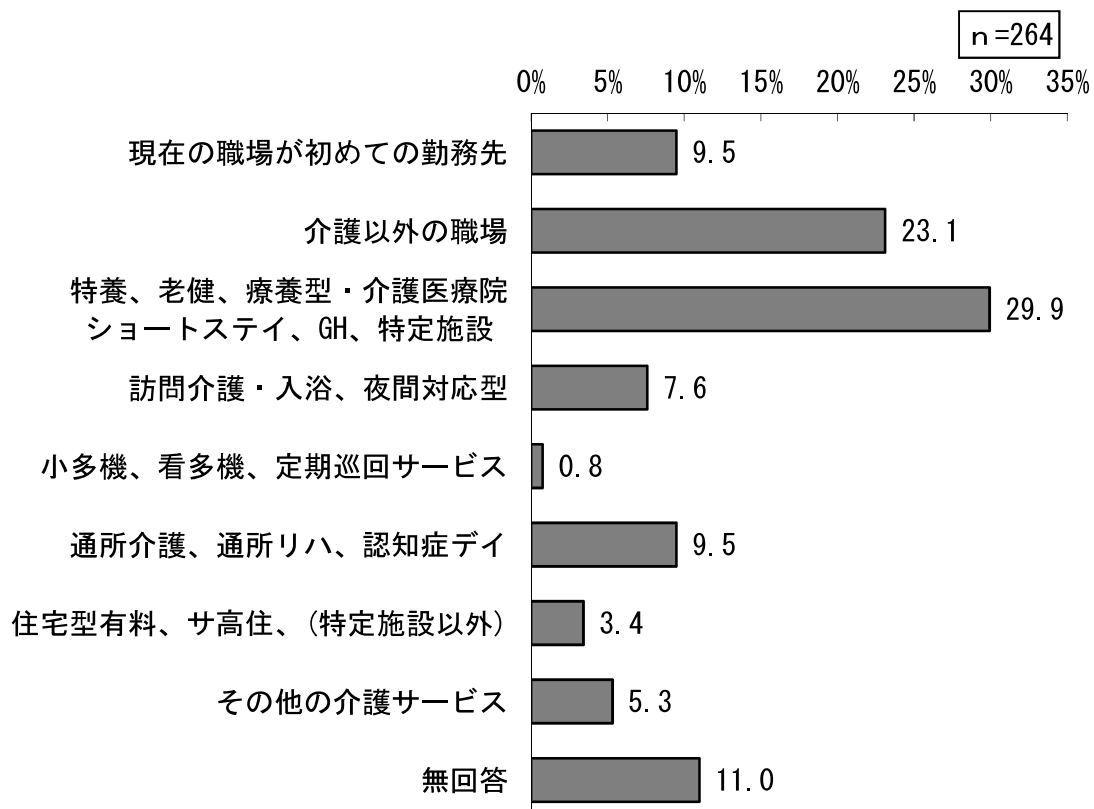


- 外国人介護人材の雇用について、「考えている」が23.1%（37事業所）、「考えていない」が76.3%（122事業所）となっています。（介護人材・意向調査）
- なお、外国人介護人材の雇用で考えられる課題について、「言語・文化の違い、コミュニケーション」などの自由記述が多くみられます。（介護人材・意向調査）

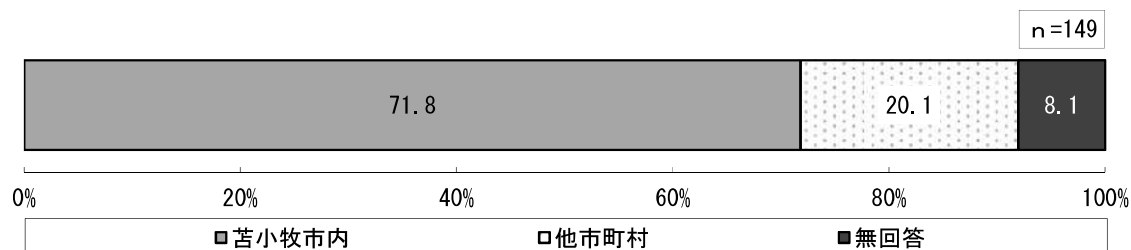


● 現在の職場経験が1年未満の職員の前職は介護サービスが5割。

- 現在の職場経験が1年未満の職員が直前に働いていた職場について、「特養、老健、療養型・介護医療院ショートステイ、GH、特定施設」が29.9%と最も割合が高く、次いで「介護以外の職場」が23.1%となっています。また、「現在の職場が初めての勤務先」と「介護以外の職場」を除いたその他の区分では、56.4%が前職も介護サービス事業に勤務していたと回答しています。（介護人材・意向調査）



- 介護サービスからの転職者における直前の職場の場所は、「苫小牧市内」が71.8%、「他市町村」が20.1%となっています。（介護人材・意向調査）

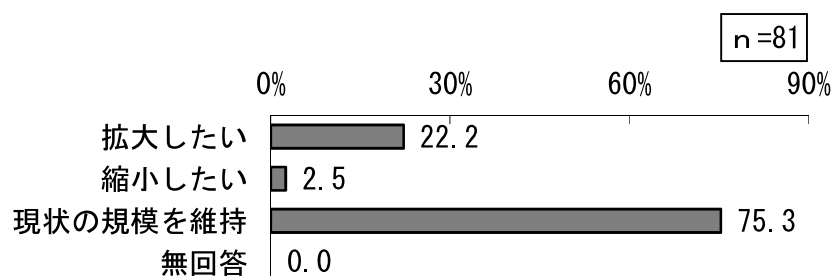


- なお、「訪問介護・入浴、夜間対応型」を除くその他のサービス種別では他市町村の事業所に勤務していた職員が一定数みられます。（介護人材・意向調査）

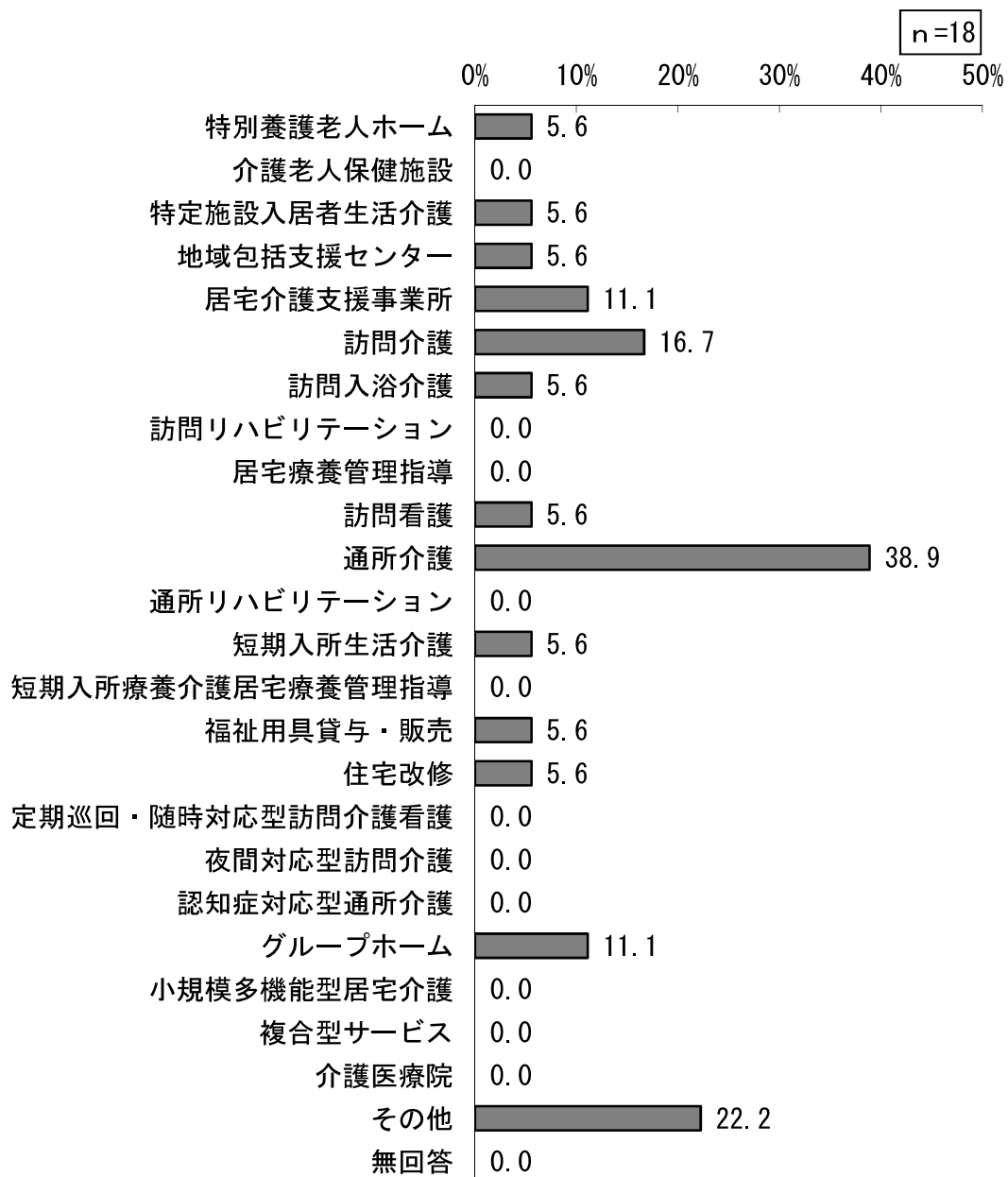
		合計	5 直前の職場について		
			苫小牧市内	他市町村	無回答
全体		149	107	30	12
		100.0	71.8	20.1	8.1
4 現在の施設に勤務する直前の職場	特養、老健、療養型・介護医療院	79	51	21	7
	ショートステイ、GH、特定施設	100.0	64.6	26.6	8.9
	訪問介護・入浴、夜間対応型	20	19	0	1
		100.0	95.0	0.0	5.0
	小多機、看多機、定期巡回サービス	2	1	1	0
		100.0	50.0	50.0	0.0
	通所介護、通所リハ、認知症デイ	25	22	3	0
	100.0	88.0	12.0	0.0	
住宅型有料、サ高住、(特定施設以外)	9	6	2	1	
	100.0	66.7	22.2	11.1	
その他の介護サービス	14	8	3	3	
	100.0	57.1	21.4	21.4	

● 今後の事業展開について、拡大希望が18事業所、縮小希望が2事業所。

- 今後の事業展開の意向について、「現状の規模を維持」が75.3%（61事業所）と最も割合が高くなっているほか、「拡大したい」が22.2%（18事業所）、「縮小したい」が2.5%（2事業所）となっています。（介護人材・意向調査）



- なお、拡大したいサービスについて、「通所介護」が38.9%（7事業所）と最も割合が高く、次いで「その他」が22.2%（4事業所）、「訪問介護」が16.7%（3事業所）となっています。（介護人材・意向調査）



- その一方で縮小したいサービスについて、「訪問介護」と「通所介護」、「短期入所生活介護」が、各1事業所から回答が得られています。
- 拡大又は縮小する内容について、拡大したいサービスの「通所介護」では「1店舗で安定させて再度編成して利用者1人にかかる時間を充実させたい」、「その他（住宅型有料老人ホーム）」では「既存のサービスを拡大したい」の自由記述がみられます。縮小したいサービスの「訪問介護・通所介護」では「将来的に事業廃止を含め。」の記述がみられます。
- 拡大したいサービスについて、「その他」では「サ高住」や「共同住宅」、「住宅型有料老人ホーム」の自由記述がみられます。（介護人材・意向調査）

③ 元気な高齢者の視点からの傾向

● 地域とのつながりを感じない・必要と思わない人ほど、誰かとの食事の機会がほとんどない傾向がみられる。

- 誰かと食事をする機会を地域とのつながり別でみると、「今まで感じたことはない」と「必要と思わない」では「ほとんどない」が比較的高い割合となっています。
- また、食事をもにす機会が「毎日ある」の回答は、「今まで感じたことはない」人では44.2%ですが、その他の区分では50%以上となっています。(ニーズ調査)

		合計	問18 誰かと食事をもにする機会					無回答
			毎日ある	週に何度かある	月に何度かある	年に何度かある	ほとんどない	
全体		5,977 100.0	3,204 53.6	396 6.6	803 13.4	915 15.3	607 10.2	52 0.9
地域とのつながり	よく感じる	757 100.0	393 51.9	68 9.0	118 15.6	126 16.6	50 6.6	2 0.3
	たまに感じる	2,086 100.0	1,177 56.4	149 7.1	265 12.7	328 15.7	153 7.3	14 0.7
	あまり感じない	2,084 100.0	1,153 55.3	108 5.2	294 14.1	301 14.4	217 10.4	11 0.5
	今まで感じたことはない	604 100.0	267 44.2	41 6.8	80 13.2	96 15.9	114 18.9	6 1.0
	必要と思わない	109 100.0	55 50.5	11 10.1	7 6.4	14 12.8	20 18.3	2 1.8

- さらに、構成別でみると、「年に何度かある」と「ほとんどない」を合わせた「月1回未満」では「1人暮らし」で49.2%と半数近くが該当しているほか、同居している家族がいる世帯でも10%以上の割合となっています。(ニーズ調査)

		合計	問18 誰かと食事をもにする機会					無回答	月1回未満
			毎日ある	週に何度かある	月に何度かある	年に何度かある	ほとんどない		
全体		5,977 100.0	3,204 53.6	396 6.6	803 13.4	915 15.3	607 10.2	52 0.9	1,522 25.5
家族構成	1人暮らし	1,423 100.0	63 4.4	199 14.0	448 31.5	394 27.7	306 21.5	13 0.9	700 49.2
	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)	2,888 100.0	1,966 68.1	98 3.4	243 8.4	371 12.8	187 6.5	23 0.8	558 19.3
	夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)	234 100.0	171 73.1	19 8.1	16 6.8	15 6.4	11 4.7	2 0.9	26 11.1
	息子・娘との2世帯	754 100.0	534 70.8	44 5.8	49 6.5	73 9.7	52 6.9	2 0.3	125 16.6
	その他	595 100.0	431 72.4	31 5.2	39 6.6	53 8.9	38 6.4	3 0.5	91 15.3

● 友人・知人に会う頻度が、性別で違いがみられる。

- 友人の家を訪ねているかについて、「男性」では「いいえ」、「女性」では「はい」が最も割合が高くなっています。(ニーズ調査)

		合計	問27 友人の家を訪ねているか		無回答
			はい	いいえ	
全体		5,977 100.0	2,616 43.8	3,300 55.2	61 1.0
性別	男性	2,712 100.0	925 34.1	1,766 65.1	21 0.8
	女性	3,256 100.0	1,687 51.8	1,530 47.0	39 1.2

- また、友人・知人と会う頻度について、「男性」では「ほとんどない」、「女性」では「月に何度かある」が最も割合が高くなっています。(ニーズ調査)

		合計	問37 友人・知人と会う頻度					ほとんどない	無回答
			毎日ある	週に何度かある	月に何度かある	年に何度かある			
全体		5,977 100.0	289 4.8	1,353 22.6	1,574 26.3	1,335 22.3	1,315 22.0	111 1.9	
性別	男性	2,712 100.0	192 7.1	535 19.7	613 22.6	654 24.1	677 25.0	41 1.5	
	女性	3,256 100.0	95 2.9	817 25.1	959 29.5	679 20.9	636 19.5	70 2.1	

- 心配事や愚痴を聞いてくれる人・聞いてあげる人について、どちらも「男性」では「配偶者」、「女性」では「友人」が最も割合が高く、女性の方が男性よりも友人・知人と交流する機会が多いとみられます。(ニーズ調査)

		合計	問32 心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人							そのような人はいない	無回答
			配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・ 親戚・親・ 孫	近隣	友人	その他		
全体		5,977 100.0	3,170 53.0	849 14.2	2,203 36.9	1,730 28.9	503 8.4	2,311 38.7	127 2.1	308 5.2	100 1.7
性別	男性	2,712 100.0	1,842 67.9	255 9.4	773 28.5	527 19.4	126 4.6	695 25.6	65 2.4	210 7.7	47 1.7
	女性	3,256 100.0	1,320 40.5	594 18.2	1,427 43.8	1,201 36.9	377 11.6	1,615 49.6	62 1.9	98 3.0	53 1.6

		合計	問33 反対に心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人							そのような人はいない	無回答
			配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・ 親戚・親・ 孫	近隣	友人	その他		
全体		5,977 100.0	2,943 49.2	753 12.6	2,054 34.4	1,840 30.8	612 10.2	2,382 39.9	104 1.7	458 7.7	161 2.7
性別	男性	2,712 100.0	1,746 64.4	254 9.4	802 29.6	584 21.5	174 6.4	720 26.5	55 2.0	266 9.8	65 2.4
	女性	3,256 100.0	1,190 36.5	499 15.3	1,246 38.3	1,254 38.5	437 13.4	1,660 51.0	49 1.5	192 5.9	96 2.9

- 幸福度について、「男性」では「5点」、「女性」では「8点」の割合が高くなっています。また、友人・知人と会う機会別でみると、「毎日ある」では「10点」、「ほとんどない」が「5点」、その他の3項目が「8点」となっています。(ニーズ調査)

		合計	問41 現在の程度幸せか										無回答	
			0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点		10点
全体		5,977 100.0	29 0.5	25 0.4	48 0.8	202 3.4	180 3.0	1,280 21.4	491 8.2	865 14.5	1,341 22.4	503 8.4	903 15.1	110 1.8
性別	男性	2,712 100.0	20 0.7	10 0.4	29 1.1	110 4.1	91 3.4	625 23.0	240 8.8	395 14.6	564 20.8	201 7.4	385 14.2	42 1.5
	女性	3,256 100.0	9 0.3	15 0.5	19 0.6	91 2.8	88 2.7	651 20.0	251 7.7	469 14.4	777 23.9	302 9.3	517 15.9	67 2.1
友人・ 知人と 会う 頻度	毎日ある	289 100.0	1 0.3	0 0.0	0 0.0	4 1.4	3 1.0	48 16.6	23 8.0	34 11.8	68 23.5	35 12.1	70 24.2	3 1.0
	週に何度か ある	1,353 100.0	2 0.1	2 0.1	7 0.5	32 2.4	23 1.7	227 16.8	106 7.8	184 13.6	369 27.3	151 11.2	238 17.6	12 0.9
	月に何度か ある	1,574 100.0	2 0.1	3 0.2	8 0.5	46 2.9	33 2.1	306 19.4	140 8.9	258 16.4	373 23.7	145 9.2	248 15.8	12 0.8
	年に何度か ある	1,335 100.0	5 0.4	7 0.5	9 0.7	45 3.4	47 3.5	291 21.8	127 9.5	209 15.7	311 23.3	103 7.7	159 11.9	22 1.6
	ほとんど ない	1,315 100.0	18 1.4	11 0.8	23 1.7	73 5.6	72 5.5	391 29.7	89 6.8	171 13.0	214 16.3	63 4.8	173 13.2	17 1.3

● 日常生活圏域によって地域との関わり・幸福度に差がみられる。

- 地域住民の有志による活動への参加者としての参加意向について、「中央部南西地区」と「中央部地区」では「参加したくない」、その他の5地区では「参加してもよい」が最も割合が高くなっています。一方で、企画・運営としての参加意向について、日常生活圏域別による大きな差はみられません。(ニーズ調査)

	合計	問30 地域住民の有志による活動に、参加者として参加したいか					
		是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	既に参加している	無回答	
全体	5,977 100.0	375 6.3	2,621 43.9	2,573 43.0	217 3.6	191 3.2	
日常生活圏域	西部西地区	1,070 100.0	69 6.4	504 47.1	424 39.6	40 3.7	33 3.1
	西部東地区	972 100.0	71 7.3	425 43.7	413 42.5	36 3.7	27 2.8
	中央部北西地区	951 100.0	50 5.3	420 44.2	416 43.7	36 3.8	29 3.0
	中央部南西地区	667 100.0	43 6.4	270 40.5	314 47.1	16 2.4	24 3.6
	中央部地区	683 100.0	39 5.7	280 41.0	313 45.8	18 2.6	33 4.8
	中央部東地区	942 100.0	57 6.1	408 43.3	406 43.1	44 4.7	27 2.9
	東部地区	683 100.0	45 6.6	309 45.2	284 41.6	27 4.0	18 2.6

	合計	問31 地域住民の有志による活動に、企画・運営として参加してみたいか					
		是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	既に参加している	無回答	
全体	5,977 100.0	150 2.5	1,671 28.0	3,771 63.1	162 2.7	223 3.7	
日常生活圏域	西部西地区	1,070 100.0	23 2.1	331 30.9	643 60.1	35 3.3	38 3.6
	西部東地区	972 100.0	23 2.4	283 29.1	621 63.9	21 2.2	24 2.5
	中央部北西地区	951 100.0	22 2.3	240 25.2	622 65.4	28 2.9	39 4.1
	中央部南西地区	667 100.0	16 2.4	171 25.6	433 64.9	21 3.1	26 3.9
	中央部地区	683 100.0	17 2.5	179 26.2	435 63.7	14 2.0	38 5.6
	中央部東地区	942 100.0	27 2.9	264 28.0	593 63.0	26 2.8	32 3.4
	東部地区	683 100.0	21 3.1	199 29.1	420 61.5	17 2.5	26 3.8

- 日常生活圏域での地域とのつながりについて、「西部西地区」と「中央部南西地区」、「中央部東地区」では「あまり感じない」、その他の4地区では「たまに感じる」が最も割合が高くなっていますが、「中央部東地区」で5.6ポイントの差がみられるほかは大きな差はみられません。(ニーズ調査)

	合計	問50 居住地域で「地域とのつながり」を感じるか						
		よく感じる	たまに感じる	あまり感じない	今まで感じたこととはない	必要と思わない	無回答	
全体	5,977 100.0	757 12.7	2,086 34.9	2,084 34.9	604 10.1	109 1.8	337 5.6	
日常生活圏域	西部西地区	1,070 100.0	127 11.9	382 35.7	392 36.6	84 7.9	16 1.5	69 6.4
	西部東地区	972 100.0	135 13.9	351 36.1	334 34.4	83 8.5	17 1.7	52 5.3
	中央部北西地区	951 100.0	123 12.9	356 37.4	309 32.5	97 10.2	17 1.8	49 5.2
	中央部南西地区	667 100.0	86 12.9	204 30.6	229 34.3	88 13.2	14 2.1	46 6.9
	中央部地区	683 100.0	94 13.8	237 34.7	208 30.5	85 12.4	18 2.6	41 6.0
	中央部東地区	942 100.0	106 11.3	311 33.0	364 38.6	97 10.3	17 1.8	47 5.0
	東部地区	683 100.0	85 12.4	244 35.7	243 35.6	69 10.1	9 1.3	33 4.8

- 幸福度について、「西部西地区」と「中央部南西地区」、「東部地区」では「5点」、その他の4地区では「8点」が最も割合が高くなっています。(ニーズ調査)

		合計	問41 現在どの程度幸せか											無回答
			0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	
全体		5,977 100.0	29 0.5	25 0.4	48 0.8	202 3.4	180 3.0	1,280 21.4	491 8.2	865 14.5	1,341 22.4	503 8.4	903 15.1	110 1.8
日常生活圏域	西部西地区	1,070 100.0	5 0.5	5 0.5	6 0.6	32 3.0	28 2.6	248 23.2	84 7.9	147 13.7	219 20.5	106 9.9	166 15.5	24 2.2
	西部東地区	972 100.0	2 0.2	3 0.3	6 0.6	24 2.5	24 2.5	189 19.4	64 6.6	138 14.2	276 28.4	91 9.4	136 14.0	19 2.0
	中央部北西地区	951 100.0	5 0.5	4 0.4	5 0.5	37 3.9	29 3.0	190 20.0	77 8.1	152 16.0	216 22.7	71 7.5	150 15.8	15 1.6
	中央部南西地区	667 100.0	5 0.7	4 0.6	10 1.5	32 4.8	23 3.4	158 23.7	68 10.2	79 11.8	133 19.9	39 5.8	104 15.6	12 1.8
	中央部地区	683 100.0	6 0.9	2 0.3	7 1.0	23 3.4	24 3.5	141 20.6	60 8.8	87 12.7	154 22.5	62 9.1	104 15.2	13 1.9
	中央部東地区	942 100.0	6 0.6	5 0.5	11 1.2	27 2.9	29 3.1	205 21.8	80 8.5	141 15.0	207 22.0	80 8.5	139 14.8	12 1.3
	東部地区	683 100.0	0 0.0	2 0.3	3 0.4	26 3.8	22 3.2	145 21.2	58 8.5	120 17.6	136 19.9	54 7.9	103 15.1	14 2.0

● 家族や友人・知人以外の相談相手として「そのような人はいない」が最も高い割合となっている。

- 家族や友人・知人以外の相談相手について、「80～84歳」以下と「100歳以上」では「そのような人はいない」、「85～89歳」から「95～99歳」にかけてでは「地域包括支援センター」が最も割合が高くなっています。
- なお、「85～89歳」から「95～99歳」にかけて「そのような人はいない」が20%以上となっており、各年齢層において家族や友人・知人以外で相談できる機関を整える必要があります。(ニーズ調査)

		合計	問36 家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手										無回答
			自治会・町内会・老人クラブ	社会福祉協議会	民生委員	ケアマネジャー	医師・歯科医師・看護師	地域包括支援センター	市役所	その他	そのような人はいない		
全体		5,977 100.0	398 6.7	200 3.3	687 11.5	316 5.3	1,182 19.8	962 16.1	845 14.1	213 3.6	2,588 43.3	408 6.8	
年齢層	65～69歳	1,417 100.0	40 2.8	35 2.5	68 4.8	45 3.2	267 18.8	128 9.0	175 12.4	61 4.3	801 56.5	63 4.4	
	70～74歳	1,887 100.0	107 5.7	63 3.3	177 9.4	71 3.8	387 20.5	258 13.7	278 14.7	60 3.2	894 47.4	111 5.9	
	75～79歳	1,212 100.0	105 8.7	43 3.5	145 12.0	60 5.0	226 18.6	215 17.7	184 15.2	39 3.2	485 40.0	91 7.5	
	80～84歳	864 100.0	83 9.6	28 3.2	156 18.1	77 8.9	177 20.5	195 22.6	134 15.5	25 2.9	263 30.4	85 9.8	
	85～89歳	422 100.0	47 11.1	21 5.0	99 23.5	41 9.7	91 21.6	114 27.0	58 13.7	19 4.5	101 23.9	41 9.7	
	90～94歳	141 100.0	14 9.9	8 5.7	33 23.4	21 14.9	27 19.1	42 29.8	12 8.5	7 5.0	33 23.4	14 9.9	
	95～99歳	24 100.0	2 8.3	2 8.3	8 33.3	0 0.0	3 12.5	9 37.5	3 12.5	2 8.3	5 20.8	3 12.5	
	100歳以上	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	

④ 要介護リスクの傾向

本項目は、厚生労働省が示した「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 実施の手引き」における分析項目のうち、一般的な集計とは異なる方法で分析する項目の傾向分析を行ったものです。

分析対象は、「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の回答者です。

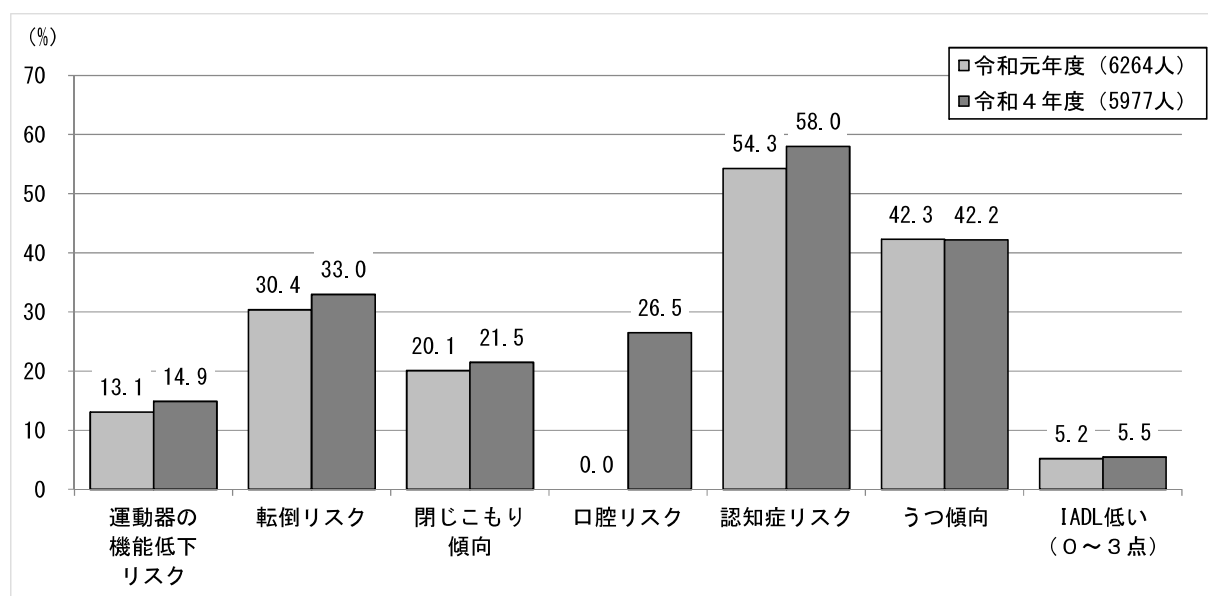
● 一般高齢者の 58.0%に「認知症リスク」、42.2%に「うつ傾向」がみられる。

○ 最も割合が高い項目は「認知症リスク」で 58.0%となっており、一般高齢者の半数以上が該当しています。次いで、「うつ傾向」が 42.2%と高い割合となっています。

また、「転倒リスク」が 33.0%となっているほか、「口腔リスク」が 26.5%となっており、各分野において予防の取組が必要と考えられます。

これを、前回（令和元年度）調査と比較すると、「口腔リスク」と「うつ傾向」を除く 5 項目で該当者の割合が上昇しています。

特に、「認知症リスク」が 54.3%から 58.0%（+3.7 ポイント）、「転倒リスク」が 30.4%から 33.0%（+2.6 ポイント）と上昇しています。



※ 口腔リスクは今回のみ集計

3 第8期計画の事業実績・施策評価の総括

本資料は、現行の「苫小牧市高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画」に記載されている保健福祉分野の施策状況を担当職員が自己評価した内容を整理したものです。

評価の区分は

A＝予定以上 B＝予定通り C＝予定未滿 D＝その他（事業・制度の廃止等）

の4区分に分けて評価しています。

【基本目標1】自立支援・介護予防等による健康な暮らしの実現

- 29項目のうち、A評価が8項目、B評価が21項目となっています。
- 「各種がん検診の実施と普及啓発」については、受診対象者へハガキや市のHP等を活用して受診勧奨を実施し、胃・肺・大腸がん検診の受診者数が前年度より増加しました。
- 「一般介護予防事業」については、地域における住民主体の介護予防活動に対する支援、活動の担い手の育成を行い、多くの高齢者の活動につながっています。このうち、令和2年度から実施しているシルバーリハビリ体操指導士養成講座は、令和3年度及び令和4年度で38名の指導士を養成し、累計57名の指導士を養成しました。
- 「ふれあいサロンの推進」について、コロナの影響でサロン活動が難しかった中でも、サロン通信を発行し、サロンの運営についての情報を継続的に発信しました。また、屋外での交流事業にも着手するなど、ふれあいサロンの事業推進を行いました。

	具体的な施策、施策・事業名	担当課等	評価
001	各種がん検診の実施と普及啓発	健康支援課	A
002	肝炎ウイルス検診	健康支援課	A
003	ピロリ菌検査・除菌の推進	健康支援課	B
004	受動喫煙防止対策の推進	健康支援課	B
005	特定健康診査・特定保健指導の実施と普及啓発	保険年金課 健康支援課	B
006	各種ドック助成事業	保険年金課	A
007	糖尿病性腎症等の重症化予防事業	保険年金課 健康支援課	A
008	ヘルスプロモーション事業	健康支援課	B
009	歯周病検診	健康支援課	A
010	こころの体温計及びこころの相談窓口の普及	健康支援課	A
011	ゲートキーパー養成講座	健康支援課	A
012	こころの相談日	健康支援課	B
013	介護予防・生活支援サービス事業	介護福祉課	B
014	一般介護予防事業	介護福祉課	B
015	地域自立生活支援事業	介護福祉課	B
016	ふれあい収集	ゼロゴミ推進課	B
017	高齢者の学びの支援と学習機会の充実	生涯学習課	B
018	車いすの貸出し	社会福祉協議会	B
019	緊急通報システム設置事業	総合福祉課	B
020	ふれあいコール事業	総合福祉課	B
021	愛の一声運動	社会福祉協議会	B
022	老人クラブ活動の支援	総合福祉課	B
023	高齢者交通費助成事業	総合福祉課	B
024	高齢者支援事業	総合福祉課	B
025	高齢者福祉センターの利用促進	総合福祉課	B
026	雪かきボランティア事業	総合福祉課	B
027	ふれあいサロンの推進	社会福祉協議会	A
028	高齢者の雇用に関する啓発	工業・雇用振興課	B
029	シルバー人材センターの支援	工業・雇用振興課	B

【基本目標 2】安心と信頼の介護保険制度の推進

- 11 項目すべてが B 評価となっています。
- 「地域密着型サービス事業所等への指導・支援」について、令和 3 年度は 25 か所、令和 4 年度は 28 か所の事業所に対して実地指導を実施しました。また、新型コロナウイルス感染症の流行のため、令和 3 年度は書面、令和 4 年度はオンラインでの講義形式による集団指導を実施しました。
- 「介護職員就業支援事業」については、介護人材確保支援事業により、令和 3 年度 15 人、令和 4 年度 21 人の就業希望者に対して事業所のマッチングを実施しました。
- 「家族介護者リフレッシュ事業」については、新型コロナウイルス感染症の流行のため、令和 3 年度は事業を中止したものの、過去の参加者を対象に介護の現状を把握するためのアンケート調査を実施しました。なお、令和 4 年度は計画通り、実施しました。
- 「社会福祉法人介護サービス利用者負担軽減事業」と「民間等介護サービス利用者負担軽減事業」について、低所得者で生計の維持が困難な利用者に対して利用者負担額の一部を助成しました。（それぞれ、令和 4 年度の対象者数は 322 人、199 人）
- 「介護給付等費用適正化事業」については、令和 3 年度及び令和 4 年度に、適正化の主要 5 事業をすべて実施しました。このうち、ケアプラン点検について、令和 3 年度より書面での点検ではなく面談形式での点検とし、より効果的な実施に努めました。

	具体的な施策、施策・事業名	担当課等	評価
001	地域密着型サービス事業所等への指導・支援	介護福祉課	B
002	利用者等への情報提供の充実	介護福祉課	B
003	介護職員就業支援事業	介護福祉課	B
004	介護現場の業務効率化	介護福祉課	B
005	在宅介護用品等支給事業	介護福祉課	B
006	在宅寝たきり高齢者等訪問理美容サービス助成事業	総合福祉課	B
007	家族介護支援事業	介護福祉課	B
008	家族介護者リフレッシュ事業	社会福祉協議会	B
009	社会福祉法人介護サービス利用者負担軽減事業	介護福祉課	B
010	民間等介護サービス利用者負担軽減事業	介護福祉課	B
011	介護給付等費用適正化事業	介護福祉課	B

【基本目標3】地域における包括的支援体制づくり

- 14項目すべてがB評価となっています。
- 「地域包括支援センター運営協議会の実施」について、令和3年度・令和4年度ともに2回開催しました。また、「地域ケア会議の実施」については、個別会議や圏域会議など、テーマに沿って会議を開催しました。
- 「高齢者見守り活動の推進」について、令和3年度以降、新たに4事業者と見守り協定を締結しました。
- 「認知症サポーター養成講座」について、新型コロナウイルス感染症により評価指標を下回りましたが、講座は令和3年度に38回開催して1,729人、令和4年度に43回開催して1,802人の認知症サポーターを養成しました。また、累計30,446人となり3万人に到達しました。
- 「認知症施策総合推進事業」のうち、認知症ケアパスについて、令和3年度に改訂し、認知症の人の家族や地域住民のほか、関係機関、町内会、老人クラブ等に配付し、認知症に関する普及啓発や相談窓口の周知を行いました。また、認知症初期集中支援チームを市内7か所に配置し、令和3年度に34件、令和4年度に28件の支援を行いました。
- 「在宅医療・介護連携推進事業」について、とまこまい医療介護連携センターを配置し、医療と介護の橋渡し役として、地域の医療・介護関係者や住民から相談を受け、連絡調整や情報提供の支援を行いました。

具体的な施策、施策・事業名		担当課等	評価
001	地域包括支援センター運営協議会の実施	介護福祉課	B
002	地域ケア会議の実施	介護福祉課	B
003	地域福祉の推進	総合福祉課	B
004	高齢者世帯調査	総合福祉課	B
005	高齢者見守り活動の推進	総合福祉課	B
006	認知症サポーター養成講座	介護福祉課	B
007	あいサポート運動	障がい福祉課	B
008	認知症施策総合推進事業	介護福祉課	B
009	生活支援体制整備事業	介護福祉課	B
010	成年後見制度の活用促進	総合福祉課	B
011	成年後見制度利用支援事業	障がい福祉課 介護福祉課	B
012	日常生活自立支援事業の推進	社会福祉協議会	B
013	在宅医療・介護連携推進事業	介護福祉課	B
014	高齢者虐待防止等の推進	介護福祉課	B

【基本目標 4】安心して暮らせる生活環境の整備

- 11 項目のうち、A評価が 1 項目、B 評価が 10 項目となっています。
- 「交通手段の確保」について、デマンド型コミュニティバスを予定通り運行して、地域住民の移動手段を確保することができました。また、利用者アンケートによると継続希望や必要不可欠との回答が多いため、運行の継続が決定しました。
- 「公共施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化の推進」について、公園のトイレ改修や、公共施設にスロープ・手すり等の設置を行いました。
- 「避難行動要支援者支援体制の確立支援」について、名簿の更新・管理を行いました。また、避難行動要支援者協定を締結している一部町内会において、市、社会福祉協議会、地域包括支援センター、基幹相談支援センター、民生委員、町内会など多くの機関が関わりを持ち、避難行動要支援者名簿を活用した見守り体制の構築に取り組みました。
- 「介護施設等の災害対策」について、地域密着型サービス事業所等における非常災害時の対応マニュアル・BCP の策定への指導・助言を行いました。
- 「介護施設等の感染症対策」について、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に対し、情報提供や指導・助言、市内事業所への市独自の支援金支給など、感染対策の体制整備等を進めました。

	具体的な施策、施策・事業名	担当課等	評価
001	交通手段の確保	まちづくり推進課	B
002	公共的施設の整備	障がい福祉課	B
003	社会資本整備総合交付金事業	道路建設課 道路維持課	B
004	公共施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化の推進	緑地公園課 建築課 設備課	A
005	高齢者住宅等の確保	総合福祉課 介護福祉課	B
006	公営住宅の安全対策	住宅課	B
007	避難行動要支援者支援体制の確立支援	危機管理室	B
008	防災行政無線整備事業	危機管理室	B
009	介護施設等の災害対策	介護福祉課	B
010	防災備蓄品整備事業	危機管理室	B
011	介護施設等の感染症対策	介護福祉課	B

4 介護給付等実績の検証

本資料は、厚生労働省が運営する「地域包括ケア『見える化』システム」から、現行の「苫小牧市高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画」で定めているサービス利用者数、給付費について、計画値と実績値を検証するものです。

(1) サービス利用者数

① 施設サービス

施設サービス利用者数について、全体では令和3年度、令和4年度ともに計画値を下回り、それぞれ97.7%、95.0%となっています。

このうち、「地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護」については、令和3年度は計画値を上回る実績となっていますが、令和4年度に利用者数が減少しています。

また、「介護医療院」及び「介護療養型医療施設」については、介護療養型医療施設から介護医療院への転換の影響により、数値の変動はあるものの、概ね計画どおりの実績となっています。

② 居住系サービス

居住系サービス利用者数について、全体では令和3年度、令和4年度ともに計画値を下回る実績となっています。

このうち、「特定施設入居者生活介護」については、令和4年度に前年度から利用人数が増えましたが、計画値より低い伸びとなっています。

また、「認知症対応型共同生活介護」については、令和3年度、令和4年度ともに計画値を下回る実績となっていますが、令和4年度に利用者数が増加しています。

③ 在宅サービス

在宅サービスの利用者数について、令和3年度、令和4年度ともに計画値を10%以上上回るサービスは、「居宅療養管理指導」のみとなっています。

また、2か年とも計画値を10%以上下回るサービスは、「短期入所生活介護」のみとなっています。

なお、「認知症対応型通所介護」では、令和3年度は計画値を上回る実績となっていますが、令和4年度に利用者数が減少しており、令和3年度が122.2%に対して、令和4年度は85.4%となっています。

		実績値（単位：人）		計画値（単位：人）		対計画比 (実績値/計画値)	
		R3	R4	R3	R4	R3	R4
施設サービス	介護老人福祉施設	7,092	7,312	7,296	7,656	97.2%	95.5%
	地域密着型介護老人福祉施設 入所者生活介護	1,077	1,035	1,044	1,044	103.2%	99.1%
	介護老人保健施設	5,473	5,175	5,628	5,628	97.2%	92.0%
	介護医療院	1,869	2,206	1,656	1,656	112.9%	133.2%
	介護療養型医療施設	322	12	576	576	55.9%	2.1%
	小計	15,826	15,740	16,200	16,560	97.7%	95.0%
居住系サービス	特定施設入居者生活介護	4,923	5,057	4,980	5,136	98.9%	98.5%
	地域密着型特定施設入居者 生活介護	339	325	348	348	97.4%	93.4%
	認知症対応型共同生活介護	5,679	5,698	5,904	5,904	96.2%	96.5%
	小計	10,941	11,080	11,232	11,388	97.4%	97.3%
在宅サービス	訪問介護	19,904	19,610	19,992	20,808	99.6%	94.2%
	訪問入浴介護	1,023	984	960	1,020	106.6%	96.5%
	訪問看護	6,646	7,294	6,276	6,564	105.9%	111.1%
	訪問リハビリテーション	679	723	720	744	94.3%	97.2%
	居宅療養管理指導	7,641	8,141	6,840	7,140	111.7%	114.0%
	通所介護	12,204	12,500	13,140	13,644	92.9%	91.6%
	地域密着型通所介護	9,417	9,612	9,108	9,480	103.4%	101.4%
	通所リハビリテーション	6,351	6,382	6,696	6,924	94.8%	92.2%
	短期入所生活介護	3,200	2,985	3,996	4,140	80.1%	72.1%
	短期入所療養介護（老健）	170	178	156	156	109.0%	114.1%
	短期入所療養介護（病院等）	0	0	0	0	-	-
	短期入所療養介護 （介護医療院）	0	0	0	0	-	-
	福祉用具貸与	35,609	36,548	35,436	36,708	100.5%	99.6%
	特定福祉用具販売	759	761	780	804	97.3%	94.7%
	住宅改修	955	921	948	984	100.7%	93.6%
	定期巡回・随時対応型訪問介護 看護	522	494	552	564	94.6%	87.6%
	夜間対応型訪問介護	0	0	0	0	-	-
	認知症対応型通所介護	44	41	36	48	122.2%	85.4%
	小規模多機能型居宅介護	1,543	1,507	1,536	1,584	100.5%	95.1%
	看護小規模多機能型居宅介護	13	11	12	12	108.3%	91.7%
介護予防支援・居宅介護支援	50,862	51,363	50,460	52,236	100.8%	98.3%	
小計（延べ人数）	157,542	160,055	157,644	163,560	99.9%	97.9%	

(2) 給付費

総給付費は、令和3年度、令和4年度ともに計画値を下回り、それぞれ98.3%、96.0%となっています。

◎ 施設サービス

施設サービスの給付費について、全体では令和3年度、令和4年度ともに計画値を下回り、それぞれ99.4%、97.4%となっています。

このうち、「介護老人福祉施設」については、令和3年度、令和4年度ともに97.2%となっています。

「介護老人保健施設」については、令和3年度、令和4年度ともに計画値を下回り、それぞれ99.1%、93.3%となっています。

また、「介護医療院」及び「介護療養型医療施設」については介護療養型医療施設から介護医療院への転換の影響により、数値の変動はあるものの、概ね計画どおりの実績となっています。

◎ 居住系サービス

居住系サービスの給付費について、全体では令和3年度は計画値を下回る実績となっていますが、令和4年度は計画値を上回り、それぞれ99.3%、101.1%となっています。

「特定施設入居者生活介護」については、令和3年度、令和4年度ともに計画値を上回り、それぞれ102.6%、105.8%となっています。

「地域密着型特定施設入居者生活介護」については、令和4年度は前年度から給付費が減少し、計画値を下回っています。

◎ 在宅サービス

在宅サービスの給付費について、全体では令和3年度、令和4年度ともに計画値を下回り、それぞれ97.1%、92.7%となっています。

計画値を令和3年度、令和4年度ともに10%以上上回るサービスは、「短期入所療養介護（老健）」のみとなっています。

また、2か年とも計画値を10%以上下回るサービスは、「短期入所生活介護」と「認知症対応型通所介護」のみとなっています。

なお、「地域密着型通所介護」と「通所リハビリテーション」、「短期入所療養介護（老健）」については、令和4年度に利用者数が増加しましたが、給付費の実績は減少しているため、利用者の中に要介護度が軽度の方が多くなったとみられます。

	実績値（単位：円）		計画値（単位：円）		対計画比 (実績値/計画値)		
	R3	R4	R3	R4	R3	R4	
施設サービス	介護老人福祉施設	1,825,290,890	1,918,129,502	1,877,764,000	1,972,458,000	97.2%	97.2%
	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	302,178,294	287,558,611	303,081,000	303,249,000	99.7%	94.8%
	介護老人保健施設	1,583,177,121	1,491,391,778	1,597,186,000	1,598,073,000	99.1%	93.3%
	介護医療院	706,557,378	823,961,080	605,316,000	605,651,000	116.7%	136.0%
	介護療養型医療施設	103,198,635	4,438,600	166,627,000	166,719,000	61.9%	2.7%
	小計	4,520,402,318	4,525,479,571	4,549,974,000	4,646,150,000	99.4%	97.4%
	居住系サービス	特定施設入居者生活介護	721,266,479	766,993,684	702,795,000	725,135,000	102.6%
地域密着型特定施設入居者生活介護		63,143,865	60,075,688	62,465,000	62,500,000	101.1%	96.1%
認知症対応型共同生活介護		1,458,812,952	1,480,127,139	1,494,140,000	1,494,969,000	97.6%	99.0%
小計		2,243,223,296	2,307,196,511	2,259,400,000	2,282,604,000	99.3%	101.1%
在宅サービス	訪問介護	1,396,283,263	1,391,749,326	1,419,970,000	1,486,049,000	98.3%	93.7%
	訪問入浴介護	58,091,800	55,331,022	56,490,000	59,951,000	102.8%	92.3%
	訪問看護	229,776,186	246,011,439	222,647,000	233,554,000	103.2%	105.3%
	訪問リハビリテーション	24,778,084	25,689,256	24,118,000	24,986,000	102.7%	102.8%
	居宅療養管理指導	64,841,543	72,560,615	59,822,000	62,430,000	108.4%	116.2%
	通所介護	787,598,940	809,672,632	857,495,000	891,475,000	91.8%	90.8%
	地域密着型通所介護	575,537,249	559,133,084	596,538,000	622,375,000	96.5%	89.8%
	通所リハビリテーション	344,991,909	342,710,591	350,991,000	363,322,000	98.3%	94.3%
	短期入所生活介護	354,769,676	303,038,817	458,620,000	477,024,000	77.4%	63.5%
	短期入所療養介護（老健）	15,866,977	14,669,113	13,203,000	13,210,000	120.2%	111.0%
	短期入所療養介護（病院等）	0	0	0	0	-	-
	短期入所療養介護（介護医療院）	0	0	0	0	-	-
	福祉用具貸与	381,431,700	389,342,337	357,341,000	371,685,000	106.7%	104.8%
	特定福祉用具販売	20,107,157	21,159,791	21,227,000	21,953,000	94.7%	96.4%
	住宅改修	53,084,016	55,634,930	52,960,000	55,074,000	100.2%	101.0%
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	59,285,413	58,692,907	53,938,000	54,792,000	109.9%	107.1%
	夜間対応型訪問介護	0	0	0	0	-	-
	認知症対応型通所介護	2,175,921	2,325,771	2,572,000	3,413,000	84.6%	68.1%
	小規模多機能型居宅介護	270,790,372	257,076,322	278,790,000	286,502,000	97.1%	89.7%
	看護小規模多機能型居宅介護	3,595,968	1,927,792	2,743,000	2,745,000	131.1%	70.2%
介護予防支援・居宅介護支援	641,037,876	648,970,210	614,372,000	636,917,000	104.3%	101.9%	
小計	5,284,044,050	5,255,695,955	5,443,837,000	5,667,457,000	97.1%	92.7%	
総給付費	12,047,669,664	12,088,372,037	12,253,211,000	12,596,211,000	98.3%	96.0%	